

中野区介護支援専門員部会 会員報告

2019年6月7日に日本ケアマネジメント学会にて、ポスター発表してまいりました。主任ケアマネジャー連絡会でのアンケート協力ありがとうございました。発表ポスターと、抄録をご覧ください。

以下、発表文

中野区介護支援専門員部会 会長宮原和道でございます。
「中野区における主任ケアマネジャー連絡会の取り組み」を副会長の高山修、役員の梅原悦子、長久子、三枝麻美と共同研究した内容を発表させていただきます。どうぞよろしくお願いたします。

まず、倫理的配慮については、研修開始前にアンケートの目的を口頭にて説明し、協力は任意としたうえで、無記名で個人が特定や推測されないよう全て統計的に処理を行いました。

抄録と数字が若干違う点は、アンケート調査を追加実施したため差異が出ておりますことをご了承ください。

まず、東京都中野区は、高齢化率が20.36%で75才以上の後期高齢者率は10.82%です。

中野区介護支援専門員部会は、なんと85事業所のうち83事業所の97.6%という高い割合で加盟しています。

中野区には214人のケアマネジャーがおり主任ケアマネジャーはそのうち64人の29.9%で、約1/3が主任となっています。

中野区介護支援専門員部会は、写真のように、中野区総合防災訓練、オレンジバルーンフェスタなかの、中野ランニングフェスタ、中野区介護の日などの活動

を行っています。また、RUN伴なかのの後援も行っており、地域活動がとても盛んな団結した職能団体です。

次の写真は、隔月で行われている主任ケアマネジャー連絡会の研修の様子です。

進化するケアマネジャー、主任ケアマネジャーのあゆみです。

2005年に介護支援専門員部会が発足され、保険者と共催研修を開始しました。2011年に主任ケアマネジャー連絡会を立ち上げ、役員による研修会を開始し、受講生は受け身の研修となっていました。

5年後の2016年に主任全員が年1回講師を担う形に進化して、その内容も、主任ケアマネジャー自身が企画立案し発信できる研修になりました。これは、中野区独自の取り組みです。この取り組みも3年が経ち、その研修効果を明らかにするために、アンケート調査を実施し、研修の有効性と課題の考察を行い、今回の研究大会で発表できることになりました。

これは、臨床家が研究者も兼ね、発信力も高めてきているという事です。

では、ツリー図をご覧ください。

研修の効果について、アンケート調査を実施し、大きく3つに分類されました。

- 1つ目は、「全員が講師をする経験が得られる」
- 2つ目は、「自分自身に気づきが得られる」
- 3つ目は、「横のつながりが得られる」です

1つ目の「全員が講師をする経験が得られる」では、さらに2つの項目に分けることができました。「伝える技術が身に付いた」と「思考の言語化ができた」で、それぞれ72%と71%で高い割合を示しています。

2つ目の「自分自身に気づきが得られる」は、3つに分類され「主任としての

成長を感じた」「知識の再取得になった」「主任としての自信が持てた」で半数以上が効果を認めています。

3つ目は、「横のつながりが得られた」で、「情報の共有ができた」「相談相手が多かった」で、やはり高い数値が出ています。

当然ですが、13.7%と低い数値ですが負担感も視られています。これは、こちらのマトリクス図で示したように、研修講師の準備時間は、多くの主任ケアマネジャーには重要だが緊急ではないところに分類されます。日常業務では、緊急だが重要ではない業務が多くもっと高い負担感になると予測されましたが、研修講師を担うということはそれほど負担ではないという数字が出ています。

考察です。

テーマごとの、効果には約20%のバラツキがあり、ケアマネジャーの興味の分散が考えられます。

しかし、約3/4の主任ケアマネジャーは、企画立案から参画することで、負担感を感じるよりも、相談相手が多くなったと感じています。これは、今後のケアマネジメントを行っていく際に、一人のケアマネジャーの知識だけではなく、相談していけることで利用者にとって有益なケアマネジメントができること。さらに、ケアマネジャーのバーンアウトの予防にもなっていると言えます。

本研究では、中野区独自の取り組みとして全員が講師を担当するというシステムを取り入れ、受信者から発信者としてのスキルを高めてきました。アンケート結果からもその効果が表れていると考えます。

発信者になることで、研修を担ったケアマネジャーは進んで自己研鑽に励み、結果として、全体の知識のボトムアップにもつながっています。

今後も、中野区主任ケアマネジャー連絡会ではこの取り組みを続けるとともに、

直接援助技術のみならず、このような間接援助技術についても調査研究をしていく予定です。

ご清聴ありがとうございました。



「中野区における 主任ケアマネジャー 連絡会の取り組み」



中野区介護支援専門員部会

会 長	宮原和道
副会長	高山 修
役員	梅原悦子
役員	長 久子
役員	三枝麻美

東京都中野区と 介護支援専門員部会と 主任ケアマネジャー連絡会

- 東京23区の西部に位置し、面積15.5km²に333,950人が居住
65才以上は67,989人⇒**高齢化率は20.36%**
75才以上は36,134人⇒**後期高齢者率は10.82%**

(令和元年5月1日現在)

- 介護支援専門員部会は、中野区に85事業所あり83事業所の**97.6%が加盟**(31年3月)
- 中野区内ケアマネジャー214人(29年7月)主任ケアマネジャーは64人とケアマネジャー ⇒ **主任率29.9%**
- 高齢者とケアマネジャーの割合は、約318人に1人のケアマネジャーが、1062人に1人の主任ケアマネジャーが活動している。

進化する中野区の 介護支援専門員、主任ケアマネジャー のあゆみ

2005年
中野区介護
支援専門員
部会

保険者と共催
研修

2011年
中野区主任
ケアマネ
ジャー連絡
会

ケアマネ部会
役員による研
修（受け身）

2016年
中野区主任
ケアマネ
ジャー連絡
会

主任による全
員講師研修
（発信）

2019年
ケアマネ学
会研究大会
発表

さらなる発信



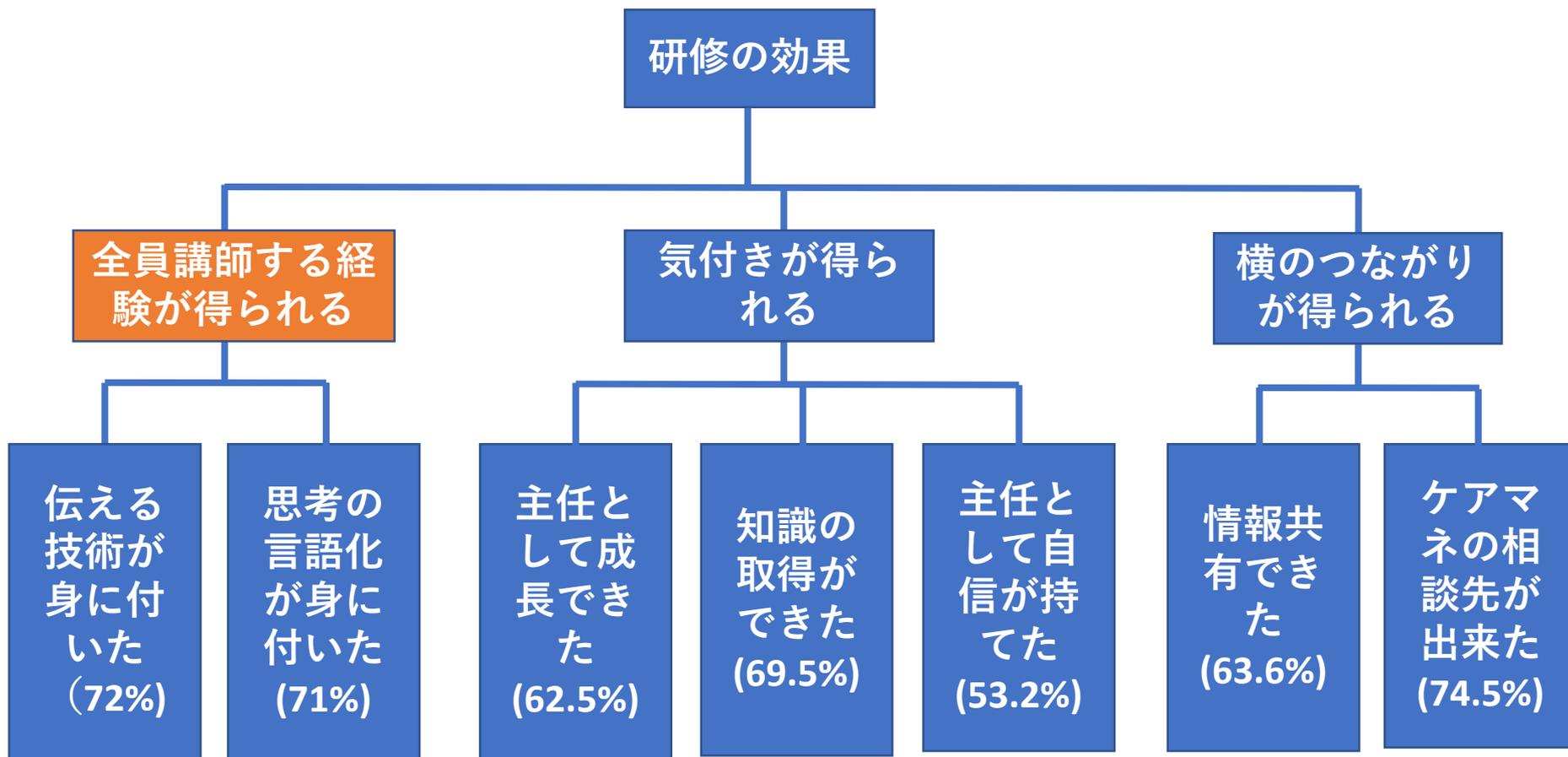




Presenter (standing at the front of the room, wearing a mask and holding a folder).

A large audience of people, many wearing face masks, seated in rows of red chairs, facing the front of the room. They appear to be attending a lecture or presentation.

中野区主任ケアマネジャー一連絡会 の取り組み

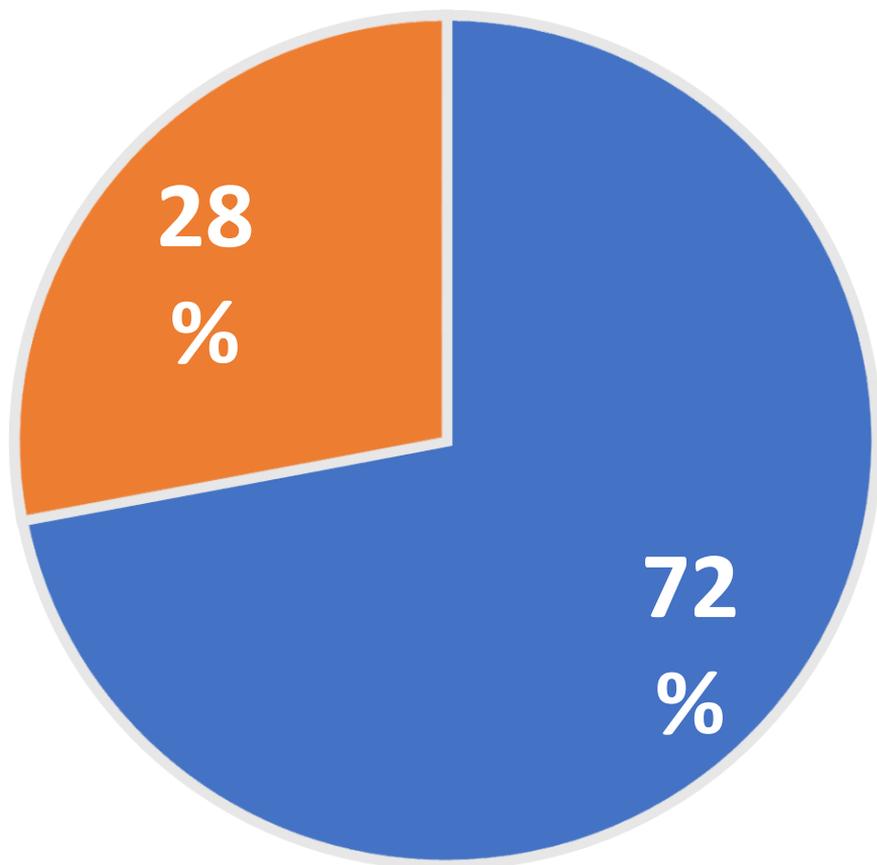


伝える技術や、思考の言語化に 効果があったのか

		法改正の 医療分野	障害のある 家族の支 援	事例から学 ぶ自立支 援型ケアマ ネジメント	全体
伝える技術	とても効果あり・あり	78.8	64.9	73	72.23
	どちらとも、あまり、なし	21.2	35.1	28	28.1
思考の言語 化	とても効果あり・あり	71.1	71.1	69.8	70.66
	どちらとも、あまり、なし	28.9	28.9	30.2	29.33

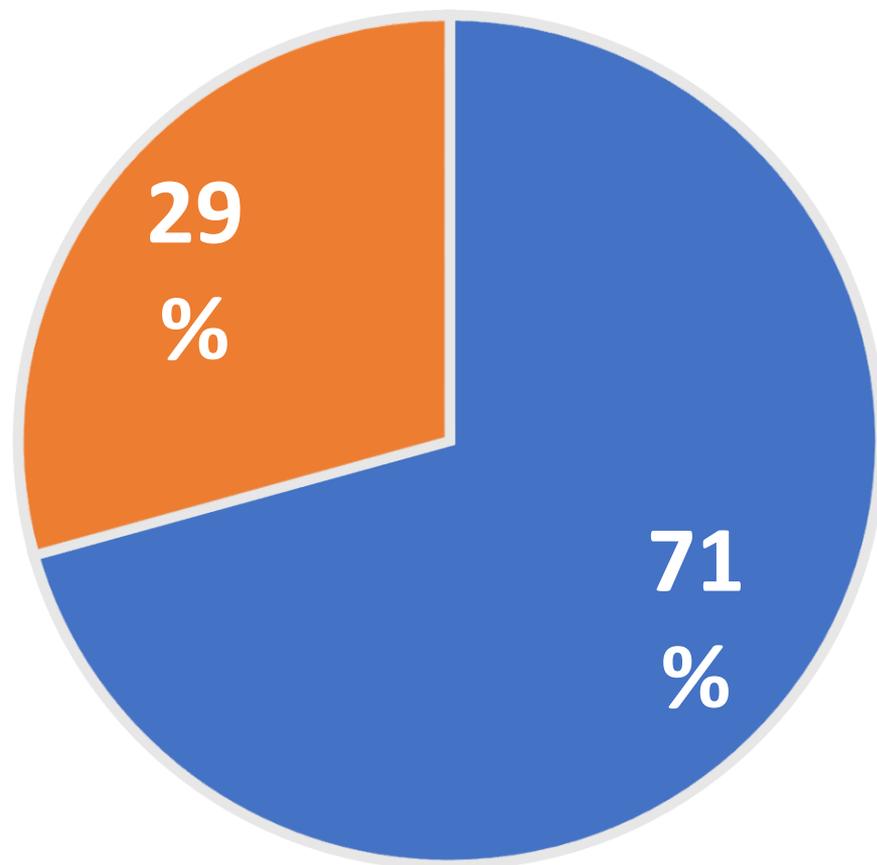
講師をすることで、伝える技術の向上への効果を感じた割合

■ とても効果あり・あり ■ どちらとも、あまり、なし



講師をすることで、思考の言語化に効果を感じた割合

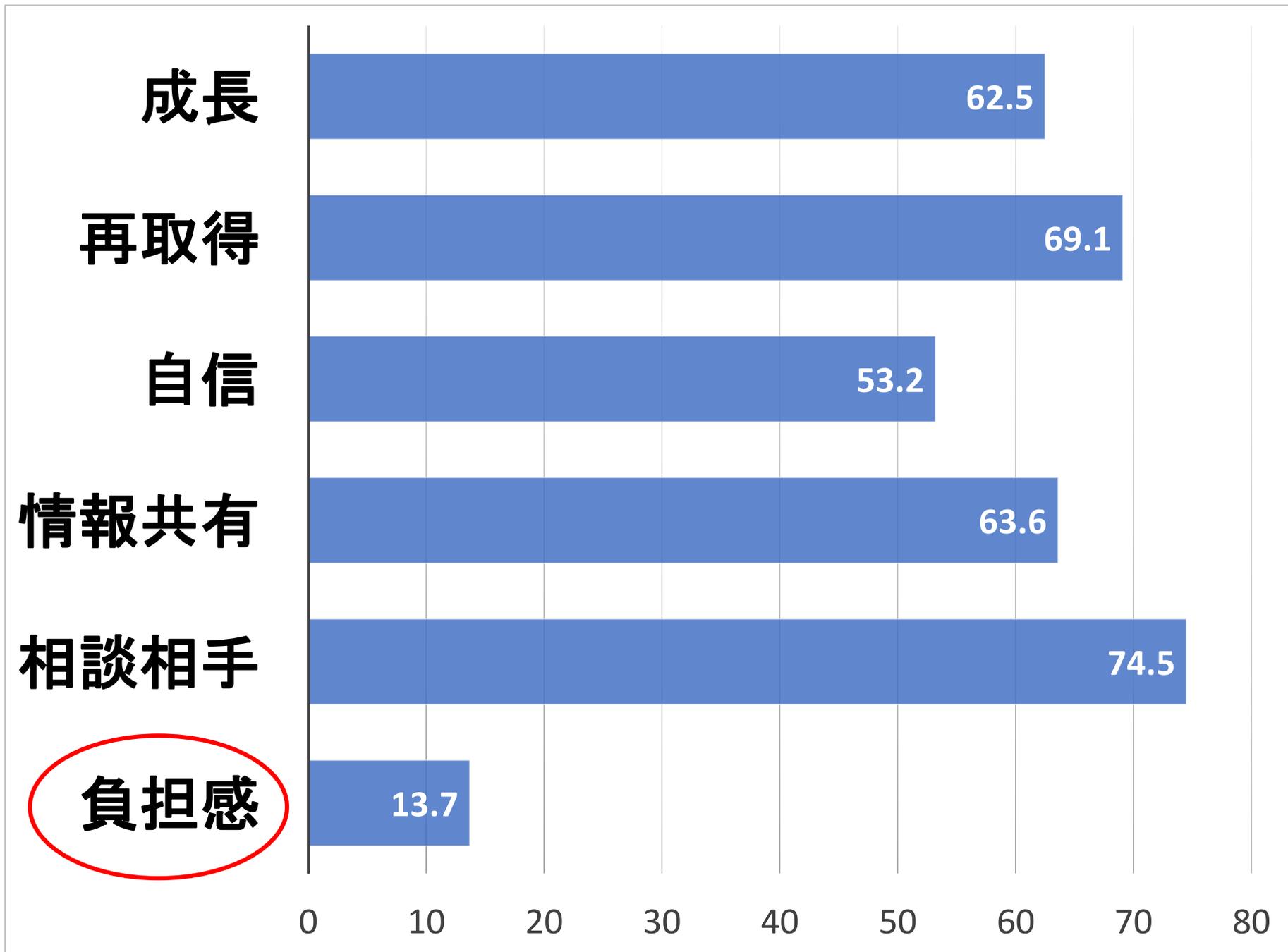
■ とても効果あり・あり ■ どちらとも、あまり、なし



気づきを得られた



項目	効果	合計割合
主任としての成長	とても効果あり・あり	62.5%
知識の再取得	とても効果あり・あり	69.1%
主任としての自信	とても効果あり・あり	53.2%



成長

62.5

再取得

69.1

自信

53.2

情報共有

63.6

相談相手

74.5

負担感

13.7

0

10

20

30

40

50

60

70

80

主任ケアマネジャーとしての講師の機会

- ・自分のスキルアップ
- ・部下の指導や育成
- ・業務システム改善

重要

- ・重大な事故やクレーム
- ・差し迫った問題
- ・危機や災害

緊急でない

- ・仕事のための仕事
- ・待ち時間
- ・暇つぶし作業

緊急

日々の業務で非常に多い

- ・アポなし来客
- ・報告書資料作成
- ・介護に根回し
- ・電話やメール

重要でない

法改正

障害

自立支援

7.8%

16.0%

17.4%

13.7%がとても負担、負担

【考察】

テーマ：「とても良い」「良い」

法改正	障害	自立支援
86.5%	66.6%	82.5%

テーマについては上下差が19.9%あり、ばらつきがみられる。

介護支援専門員の興味⇒対象が分散

効果：相談相手ができた

「とても効果あり」 「あり」

3回合計割合

74.5%

研修に参加ではなく、企画から参画する
⇒横の連携・相談相手ができる機会



利用者にとって有益
ケアマネジャーのバーンアウト予防